

科目名	法学(含む日本国憲法)	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	B a s i c o f L a w	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ふりがな	なかがわしゅういち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	中川 修一	修得単位	2 単位
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 社会において、法と日常生活がどのような形式で関わっているのか、理解度を高める。 〔テーマ〕 一日一日		
準備学習	身の周りには法に関する諸問題が新聞、報道等に資料がたくさんあり、常に興味を持つこと。毎回資料を配布するので、理解してくること。		
授業概要	私たちは、法を意識しないで生活をしております。ところが、普段の生活は、法に守られて生活をしております。この講義では、意識させるための理解度を高めるための実例をあげ、分かり易く進めていきます。		
授業計画			
第1回 法とは何か			
第2回 法と他の社会規範			
第3回 法と道徳Ⅰ			
第4回 法と道徳Ⅱ			
第5回 法の権利・義務			
第6回 法の適用			
第7回 法の解釈Ⅰ			
第8回 法の解釈Ⅱ			
第9回 法の分類Ⅰ			
第10回 法の分類Ⅱ			
第11回 憲法とは何か			
第12回 基本的人権Ⅰ			
第13回 基本的人権Ⅱ			
第14回 統治機構Ⅰ			
第15回 統治機構Ⅱ			
第16回 試験			
テキスト	法学入門 末川 博編 有斐閣		
参考文献	授業でその都度紹介します。		
評価の方法	出席。その他で総合判断。		
学生へのメッセージ	社会にでても、困らない内容になっております。		

科目名	運動生理学	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	Exercise Physiology	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年
ふりがな	さとう みのる	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	佐藤 実	修得単位	2 単位
授業の到達目標 及びテーマ	[到達目標] 健康の形成・維持・増進および生活習慣病の予防・改善に効果的な運動を栄養学的かつ生理学的に理解し、説明できること [テーマ] 軽い運動を通して理解する		
準備学習	普段から新聞やネットの関連記事に目を通しておくこと		
授業概要	健康の形成、増進および生活習慣病の予防・改善の意義、それらに有効な運動の種類と時間、そして、それらの処方仕方等について運動を通して学ぶ。		
授業計画			
第1回	健康の増進と運動(1) 健康の増進の意義、現代人の生活の問題点(運動不足、ストレス)		
第2回	健康の増進と運動(2) 肥満の種類と原因・病態、肥満度の判定、生活習慣病(メタボリックシンドロームなど)		
第3回	身体運動のしくみ(1) 骨格筋収縮のしくみ、収縮時のエネルギー供給(クレアチンリン酸、乳酸)、		
第4回	身体運動のしくみ(2) 呼吸器や循環器との関連		
第5回	運動とエネルギー代謝 最大酸素摂取量、身体活動レベル		
第6回	トレーニングとその効果(1) トレーニングの種類と方法、トレーニングの原則		
第7回	トレーニングとその効果(2) NO産生による動脈硬化症の改善作用および高血圧症改善作用、心肺機能の増進、肥満の解消		
第8回	トレーニングとその効果(3) トレーニング効果による遺伝子の発現		
第9回	運動と栄養 運動時のエネルギー産生、運動時の栄養素の利用、活性酸素と運動		
第10回	運動選手と栄養 運動選手の食事、運動選手とサプリメント		
第11回	運動処方(基礎) 運動処方作成、基礎調査、医学的検査、運動負荷検など		
第12回	運動処方の実際(1) 運動の種類と各年代別の健康づくりの運動処方		
第13回	運動処方の実際(2) 減量のための運動、病気治療のための運動		
第14回	女性と運動(1)		
第15回	女性と運動(2)		
第16回	試験		
テキスト	資料を配布する。		
参考文献	「やさしい運動生理学」南江堂、「イラスト運動生理学」東京教学社、「運動生理学実習」		
評価の方法	試験の成績で評価する。		
学生へのメッセージ	栄養学、生化学、解剖生理学、病態生理学、臨床栄養学などで学習したことに関連付けて受講してほしい。実際に健康形成のための運動を通して理解してもらおう。		

科目名	心理学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	Psychology	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年
ふりがな	たきざわ じゅん	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	瀧澤 純	修得単位	2単位
授業の到達目標 及びテーマ	<p>〔到達目標〕本講義では心理学の基礎的な知識を身につけることにより、人間や動物の心についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>〔テーマ〕物の見え方や感じ方のような基礎的な心理学から、心の健康のような応用的な心理学までを、体験しながら学ぶ。</p>		
準備学習	自分の身の回りの人に注目すること。さらに、心理学や脳科学などの本やメディアに目を向け、それらの本やメディアが本当に正しいのか、間違っているのかを考えること。		
授業概要	好き嫌いを感じる、話す、聞く、やる気をだす、成長する、情報を受け取る、覚えるなどの、さまざまな行動について理解する。		
授業計画			
第1回 コミュニケーション①（恋愛と友情の初期）			
第2回 コミュニケーション②（恋愛と友情の中期・後期）			
第3回 コミュニケーション③（ジェスチャー）			
第4回 言語心理学（方言、言葉の発達）			
第5回 学習心理学（パブロフの犬、やる気）			
第6回 発達心理学（認知能力や知能の発達）			
第7回 認知心理学①（知覚、注意と不注意）			
第8回 認知心理学②（記憶、認知）			
第9回 犯罪心理学（嘘、洗脳）			
第10回 オカルト心理学（超能力、夢分析）			
第11回 性格心理学（性格検査、血液型と性格）			
第12回 臨床心理学①（アセスメント、精神疾患の名称とその特徴）			
第13回 臨床心理学②（カウンセリングにおける基本的態度）			
第14回 健康心理学①（ストレスと寿命、脳トレ、栄養と感情）			
第15回 健康心理学②（ストレスへの対処、呼吸法）			
第16回 期末試験			
テキスト	特に指定しません。講義中に穴埋め式のプリントを配布します。		
参考文献	授業中に指示します。		
評価の方法	期末試験の結果と、毎週の提出物を参考にします。		
学生への メッセージ	授業の計画および授業の内容は状況に応じて変更する場合があります。授業中に変更のお知らせをしますので、授業へ積極的に参加してください。		